

8/10 みわ県議と市議ら現地に走り即日緊急要望、8/16 熊谷知事に直談判 エアコン故障の柏児童相談所～今年夏は 34.2 度に 9 月議会で追及！ようやく来年1月末までに改善工事決定

「熱中症に…」 「頭痛や吐き気で限界」(職員)
一部児童も被害 事実上「放置」県の責任重大

柏児童相談所の空調機器が今年2月から故障していることが8月共産党への通報で判明。ところが修理されないまま、今夏の猛暑100人近い職員が冷房なしで仕事を強いられ、熱中症も。公務災害であり、命と人権にかかわる重大事態。県は、「扇風機や冷風扇を設置した」と言いますが、室温チェックすらせず、8月16日日本共産党が現地調査(写真)した際の執務室は34.2℃もありました。

議会で速やかな改善をくり返し迫り、
人事委員会に、立入調査を要求

みわ県議と市議(松戸・流山・柏)らはその日のうちに県に、エアコン修理と、冷風扇などの臨時的措置を緊急要望。みわ県議は8月16日熊谷知事に直談判。9月県議会の一般質問、常任委員会、決算委員会でも改善を迫りました。地方公務員法に基づき公務職場の労働環境の指導監督権限を持つ人事委員会に対しても、室温28℃以下の衛生基準規則に沿った機敏な対応、立入調査等を求めました。

粘り強く、あきらめない取り組みが実を結び

市民からも批判の声が寄せられ、県は「設備を新しくするには時間や費用がかかる」としていましたが、ようやく修理決定。来年の夏はエアコンが使える執務室で職員が仕事できる見込みです。遅すぎます。二度とこんなことがあってはなりません。